

【状況】

新規情報についてはアンダーラインを記載

- ・2月1日13時00分、気象庁は浅間山(群馬、長野県境)の噴火警戒レベルを3に引上げ
- ・2月2日1時51分頃、小規模な噴火が発生
- ・噴煙を2,000mまで観測
- ・軽井沢から南関東で降灰を観測
- ・噴火後の地震回数は減少、現在地殻変動は落ち着いている
- ・火映や二酸化硫黄の放出の多い状態が観測、熱活動は高まった状態が継続



2月2日9時の状況



国土交通省利根砂防(浅間東)

2月2日01時51分過ぎ浅間山

【対応】

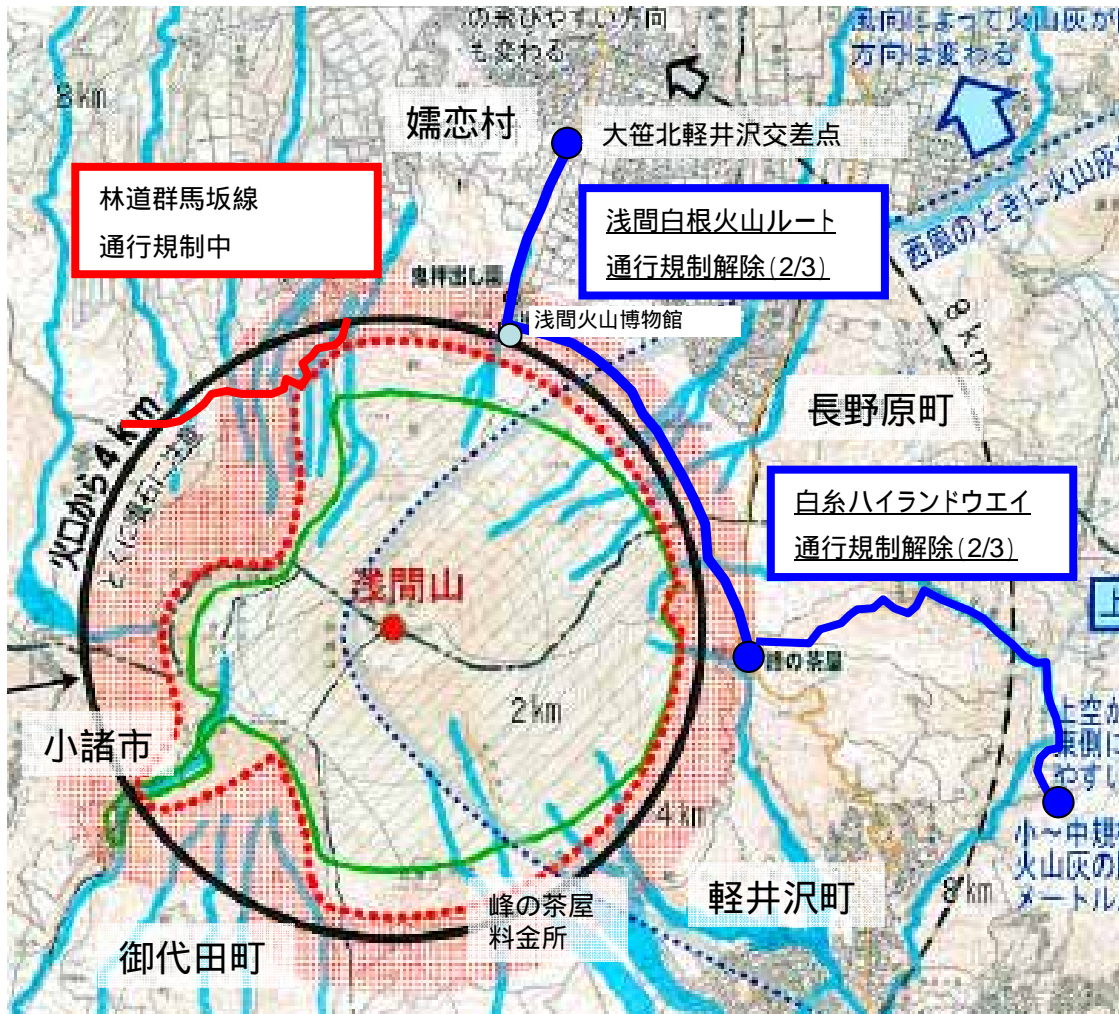
- ・利根川水系砂防事務所では大型土のうの準備等、緊急減災対策を検討中
- ・林道群馬坂線は通行規制中、浅間白根火山ルート、白糸ハイランドウェイの通行規制は解除済み
- ・関係市町村では、防災行政無線により住民に周知するとともに、火口から4kmの範囲について入山規制を実施
- ・ヘリ調査の実施
 - ・関東地方整備局、利根川水系砂防事務所、国土技術政策総合研究所、(独)土木研究所、群馬県、長野県、嬭恋村で2月2日に2回ヘリ調査を実施
 - ・関東地方整備局は、群馬、長野両県の砂防部局のヘリ調査をサポート
- ・連絡体制
 - 国土交通省、関東地方整備局、利根川水系砂防事務所、群馬県、長野県、長野原町、嬭恋村、軽井沢町、小諸市、御代田町、佐久市で連絡体制を確認

【ヘリ調査結果】

- ・火山噴出物は浅間山南南東斜面L = 2km程度までの範囲の積雪上に薄く(1 ~ 2mm程度)堆積
- ・高温の火砕サージで融雪した状況は見られない。堆積物は火口から噴出した火山灰が斜面上に落ちたものと思われる
- ・堆積範囲の幅がそれほど大きくない(W=0.5 ~ 1km程度)ことから、噴出時間も噴出高度も大きなものではなかったと考えられる
- ・今回の火山噴出物は山麓の居住区域に直ちに影響を与えるような規模ではない。同規模の現象では、下流まで到達するような融雪泥流を引き起こす可能性は低い



2月2日ヘリ調査による浅間山山頂付近の状況



浅間山の火口周辺の規制状況(2月1日 13:00 ~)

参考 平成16年9月の浅間山噴火

気象庁火山活動解説資料(H16.9より)

○主な噴火

| 発生日時 | 噴火の表現 | 噴煙の状況(火口縁上の高さ、流向等) | 空振(Pa) ^{※1} | | 噴石の飛散、火山れきの降下等 ^{※2} | 降灰状況 主な確認地点 ^{※2} | 噴火前に観測された現象 | 備考 |
|---------------|--------|--|----------------------|-----------|--------------------------------------|---|--------------------------------|--------------------------------|
| | | | A点 | 遠分 | | | | |
| 1日 20時02分 | 中爆発 | 雲のため不明。気象レーダーにより3,500~5,500mで北東に流れるエコーを観測。 | S.O. | 205.0 | 火口周辺に直径3~4mの噴石、火口の北東6km付近に3cm程度の火山れき | 北東方向の群馬県嬬恋村・沼田市、福島県郡山市・相馬市等。 | 約20時間前から山頂直下が膨らむような傾斜変化と地震の多発。 | 山麓から火山雷が確認された。 |
| 14日 15時36分 | 小噴火 | 2,500mまで上がり東に流れる | 0.3 | — | 特に確認されず | 東南東方向の長野県軽井沢町、群馬県松井田町・安中市等 | 約14分前から地震が12回と多発 | |
| 15日 ~18日 | 小噴火が頻発 | 最高1,500mまで上がり南~南東に流れる | 最大 13.2 | 最大 9.4 | 火口周辺に噴石が間欠的に飛散 | 南東方向の長野県軽井沢町をはじめ関東地方南部(埼玉県、東京都、神奈川県、千葉県)の一部 | | |
| 23日 19時44分 | 中爆発 | 雲のため不明 | S.O. | 72.3 | 火口の北北東4km付近に3cm程度の火山れき | 北~北東方向の群馬県嬬恋村・長野原町、新潟県大和町、山形県山形市・東根市等 | 約4時間前から山頂直下が膨らむような傾斜変化。地震の増加。 | 爆発地震により軽井沢町遠分及び御代田町御代田で震度1を観測。 |
| 29日 12時17分 | 中爆発 | 雲のため不明 | 52.5 | 29.6 | 火口の北4km付近に4cm程度の火山れき | 北~北東方向の群馬県嬬恋村・長野原町・草津町等 | 約6時間前から山頂直下が膨らむような傾斜変化 | 爆発地震により御代田町御代田で震度1を観測。 |

※1 空振は空振計で観測しており、単位は圧力を表すパスカル(Pa)。おおむね10Paを超えると身体に感じられるようになり、数百Paではガラスが割れるなどの被害を生じる可能性がある。

※2 噴石の飛散、火山れきの降下、降灰状況は、気象官署、大学等研究機関、防災関係機関及び一般からの情報に基づく。